コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ ガイド

HP Compaq 6000 Pro Business PC

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ ガイド

HP Compaq 6000 Pro Business PC

初版：2009 年 9 月

製品番号：576437-291

このガイドについて

このガイドでは、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティの使用方法について説明します。このツールは、新しいハードウェアを取り付けたときにコンピュータの初期設定を再構成および変更する場合や、メンテナンスを行う場合に使用します。

⚠ **警告！** その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こすおそれがあるという警告事項を表します。

△ **注意：** その指示に従わないと、装置の損傷やデータの損失を引き起こすおそれがあるという注意事項を表します。

注記： 重要な補足情報です。

目次

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティは、以下のような操作を行う場合に使用します。

- コンピュータの工場出荷時の設定の変更
- コンピュータ（リアルタイム クロック）の日付（Date）と時刻（Time）の設定
- システム構成（プロセッサ、グラフィックス（ビデオ）、メモリ、オーディオ、記憶装置、通信ポート、入力装置など）の表示、設定の変更、または確認
- 起動可能なデバイスの起動順序（Boot Order）の変更。起動可能なデバイスとしては、ハードディスク ドライブ、オプティカル ドライブ、USB フラッシュ メディア デバイスなどがあります。
- クイック ブート（Quick Boot）の有効化。クイック ブートでは、コンピュータをすばやく起動できますが、フル ブートで実行される診断テストの一部が省略されます。以下のように設定できます。
    - ❑ 常にクイック ブート（初期設定）
    - ❑ 定期的にフル ブート（毎日～ 30 日まで指定可）
    - ❑ 常にフル ブート
- POST（Power-On Self-Test）メッセージ（Post Message）の有効（Enable）/無効（Disable）の選択による、メッセージの表示状態の変更。非表示状態では、メモリ カウント、製品名、エラーでないその他のテキスト メッセージなど、ほとんどの POST メッセージが表示されません。POST エラーが発生した場合には、選択した設定に関係なくエラー メッセージが表示されます。POST 実行中に非表示モードから表示モードに切り替えるには、F1 ～ F12 キー以外の任意のキーを押してください。
- オーナーシップタグ（Ownership Tag）の設定。オーナーシップタグを設定しておくと、システムを起動または再起動するたびにコンピュータの所有者に関する情報が画面上に表示されます。
- 会社によって割り当てられたアセットタグ（Asset Tag）または資産 ID 番号の設定
- システムの起動時だけではなく、再起動時の電源投入時パスワード入力画面の有効化
- セットアップ パスワード（Setup Password）の設定。セットアップ パスワードは、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティおよびこのガイドで説明する設定にアクセスする場合に使用します。

- シリアル ポート、USB コネクタ、パラレル ポート、オーディオ、内蔵 NIC（ネットワーク インタフェース コントローラ）などの内蔵 I/O 機能の使用禁止/許可の設定
- リムーバブル メディアからの起動（Removable Media Boot）の有効/無効の設定
- POST で検出されて自動修復できなかったシステム構成のエラーの解決
- リプリケート セットアップ機能の利用。コンピュータの設定情報を USB フラッシュ メディア デバイスまたはディスケットをエミュレートするその他の記憶装置に保存し、その情報を使用して複数のコンピュータを同じ設定にすることができます。
- 特定の ATA ハードディスク ドライブのセルフテストの実行（ドライブでサポートされている場合）
- ドライブロック セキュリティ（DriveLock Security）の有効/無効の設定（ドライブでサポートされている場合）

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティの起動

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティには、コンピュータの電源を入れるか再起動することでのみアクセスできます。コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティを起動するには、以下の操作を行います。

1. コンピュータの電源を入れるか再起動します。
2. コンピュータが起動してモニタ ランプが緑色に点灯したらすぐに F10 キーを押し、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティを実行します。必要であれば、Enter キーを押すと、タイトル画面をスキップできます。

   注記： 適切なタイミングで F10 キーを押せなかった場合は、コンピュータを再起動して、モニタ ランプが緑色に点灯したときにもう一度 F10 キーを押します。

3. 使用言語を一覧から選択し、Enter キーを押します。
4. コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティのメイン画面から 5 つのメニュー（[ファイル]（File）、[ストレージ]（Storage）、[セキュリティ]（Security）、[電源]（Power）、[カスタム]（Advanced））を選択できます。
5. 左右の矢印キーでメニューを選択し、上下の矢印キーで項目を選んで Enter キーを押します。コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティのメニューに戻るには、Esc キーを押します。
6. 変更した設定を有効にして保存するには、**[ファイル]→[変更を保存して終了]**（Save Changes and Exit）の順に選択します。
   - 変更した設定を破棄したい場合は、**[変更を保存しないで終了]**（Ignore Changes and Exit）を選択します。
   - 工場出荷時の設定値または以前保存した初期設定値（一部のモデルのみ）に戻す場合は、**[初期設定値に設定して終了]**（Apply Defaults and Exit）を選択します。このオプションは、工場出荷時のシステムの初期値を復元します。

△ 注意： CMOS の損傷を防ぐため、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティでの変更が BIOS に保存されている最中に、コンピュータの電源を切らないでください。コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティの終了後にのみ、安全にコンピュータの電源を切ることができます。

表 1 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ

説明	表
ファイル（File）	3 ページの 表 2 「コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[ファイル]（File）」
ストレージ（Storage）	4 ページの 表 3 「コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[ストレージ]（Storage）」
セキュリティ（Security）	6 ページの 表 4 「コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[セキュリティ]（Security）」
電源（Power）	10 ページの 表 5 「コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[電源]（Power）」
カスタム（Advanced）	11 ページの 表 6 「コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[カスタム]（Advanced）（上級ユーザ向け）」

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[ファイル]（File）

注記： コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

表 2 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[ファイル]（File）

項目	説明
システム情報（System Information）	以下の項目を表示します • 製品名（Product Name） • SKU 番号（SKU Number）（一部のモデルのみ） • プロセッサ タイプ/速度/ステッピング（Processor Type/Speed/Stepping） • キャッシュ サイズ（Cache size）（L1/L2） • 取り付けられているメモリのサイズ/処理速度、チャンネルの数（シングルまたはデュアル）（必要に応じて） • 内蔵の有効な NIC 用の内蔵 MAC アドレス（Integrated MAC）（必要に応じて） • システム BIOS（System BIOS）：システム ファミリの名前とバージョン • 本体シリアル番号（Chassis Serial Number） • アセット タグ（Asset Tracking Number） • ME ファームウェア バージョン（ME Firmware Version） • 管理モード（Management mode）
バージョン情報（About）	著作権情報を表示します
日付と時刻（Set Time and Date）	システムの時刻と日付を設定できます
フラッシュ システム ROM（Flash System ROM）	USB フラッシュ メディア デバイスまたは CD-ROM に収録された BIOS イメージ ファイルを使用してシステム ROM を更新できます
複製セットアップ（Replicated Setup）	リムーバブル メディアに保存（Save to Removable Media）

表 2 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[ファイル]（File） (続き)

項目	説明
	USB フラッシュ メディア デバイスまたはディスケットと同等のデバイス（ディスケット ドライブをエミュレートするよう設定された記憶装置）に、CMOS を含めたコンピュータの設定情報を保存します リムーバブル メディアから復元（Restore from Removable Media） USB フラッシュ メディア デバイスまたはディスケットと同等のデバイスに保存されているシステム構成を復元します
初期値の変更（Default Setup）	現在の設定を初期設定として保存（Save Current Settings as Default） 現在のシステム構成の設定を初期設定として保存します 工場出荷時の設定を初期設定として復元（Restore Factory Settings as Default） 出荷時のシステム構成の設定を初期設定として復元します
初期値に設定して終了（Apply Defaults and Exit）	現在選択されている初期設定を適用し、すべてのパスワード設定を消去します
変更を保存しないで終了（Ignore Changes and Exit）	変更した設定値を破棄し、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティを終了します
変更を保存して終了（Save Changes and Exit）	変更した設定値や初期設定を保存し、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティを終了します

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[ストレージ]（Storage）

注記： コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

表 3 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[ストレージ]（Storage）

項目	説明
デバイス構成（Device Configuration）	取り付けられているストレージ デバイスのうち、BIOS で制御されるものをすべて表示します デバイスを選択すると、そのデバイスに関する詳細情報およびオプションが表示されます。以下のような項目が表示されます ドライブ エミュレーション（Drive Emulation） 特定のストレージ デバイスのドライブ エミュレーション タイプを選択できます（たとえば、Zip ドライブは、ディスケット エミュレーションを選択することで起動可能になります） エミュレーション タイプ（Emulation Type） ATAPI Zip ドライブ（ATAPI Zip drive）： ● なし（None）（その他の各種ドライブとして処理） ● ディスケット（Diskette）（ディスケット ドライブとして処理） CD-ROM：なし

表 3 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[ストレージ]（Storage）（続き）

項目	説明
	ATAPI LS-120： ● なし（None）（その他の各種ドライブとして処理） ● ディスケット（Diskette）（ディスケット ドライブとして処理） ハードディスク（Hard Disk）： ● なし（None）（BIOS データ アクセスを防止し、ブート デバイスとして無効にする） ● ハードディスク（Hard Disk）（ハードディスク ドライブとして処理） 変換モード（Translation Mode）（ATA ディスクのみ） デバイスで使用する変換モードを選択します。これによって BIOS は、他のシステム上でパーティション分割およびフォーマットされたディスクにアクセスできます。これは、旧バージョンの UNIX（SCO UNIX バージョン 3.2 など）のユーザにとって必要な場合があります。オプションには、自動（Automatic）、ビットシフト（Bit-Shift）、LBA 支援（LBA Assisted）、ユーザ（User）、およびオフ（Off）があります **注意：** 通常は、BIOS によって自動的に選択された変換モードは変更しないでください。選択された変換モードが、ディスクをパーティション分割およびフォーマットしたときにアクティブであった変換モードと互換性がないと、ディスク上のデータにアクセスできなくなります 変換パラメータ（Translation Parameter）（ATA ディスクのみ） **注記：** この機能は変換モード（Translation Mode）にユーザ（User）が選択されているときにのみ表示されます パラメータ（論理シリンダ（Logical Cylinders）、ヘッド（Heads）、およびトラック当たりのセクタ数（Sectors Per Track））を指定できます。BIOS はこれを使用して（オペレーティング システムやアプリケーションからの）ディスク I/O 要求を、ハードディスク ドライブで受け入れ可能な様式に変換します。論理シリンダは 1024 を超えることはできません。ヘッド数は 256 を超えることはできません。トラック当たりのセクタ数は 63 を超えることはできません。これらのフィールドは、ドライブの変換モードが「ユーザ」に設定されているときにのみ、表示および変更できます SATA デフォルト値（SATA Default Values） ATA デバイス用変換モード（Translation Mode）の初期設定値を指定します
ストレージ オプション（Storage Options）	リムーバブル メディアの起動（Removable Media Boot） リムーバブル メディアからシステムを起動する機能の有効（Enable）/無効（Disable）を設定します ★eSATA ポート★（eSATA Port） eSATA サポートを有効にできます。これによって、SATA コネクタのどれかが eSATA 対応になります eSATA 最大速度（Max eSATA Speed） eSATA 最大速度として 1.5 Gbps または 3.0 Gbps を選択できます。初期設定では、信頼性を最大にするため、速度は 1.5 Gbps に制限されています **注意：** 3.0 Gbps の速度を有効にする前にお使いの eSATA ドライブとケーブルの製造元に問い合わせてください。一部のドライブとケーブルの組み合わせでは、3.0 Gbps での動作が不安定になることがあります SATA 構成（SATA Emulation） SATA コントローラおよびデバイスにオペレーティング システムからアクセスする方法を選択できます。サポートされている 2 つのオプションは、IDE と AHCI です

表 3 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[ストレージ]（Storage）（続き）

項目	説明
	IDE：これらのオプションの中で最も後方互換性がある設定です。通常オペレーティング システムでは、IDE モードで追加のドライバ サポートは必要ありません AHCI（初期設定時のオプション）：AHCI デバイス ドライバがロードされているオペレーティング システムで、SATA コントローラのより高度な機能を利用できます 注記：　AHCI ボリュームからブートを試みる前に、AHCI デバイス ドライバをインストールする必要があります。必要な AHCI デバイス ドライバをインストールしないで、AHCI ボリュームからブートを試みると、システムがクラッシュします（ブルー スクリーンが表示されます） AHCI について詳しくは、http://www.hp.com/support/を参照してください。ホワイト ペーパーは英語で提供されていますので、**[United States (English)]**を選択し、**[See support and troubleshooting information]**（サポート、問題解決情報、マニュアルを表示する）をチェックしてからコンピュータのモデル番号を入力して Enter キーを押します。**[Resources for my selected product]**（選択した製品向けリソース）カテゴリで、**[Manuals (guides, supplements, addendums, etc)]**（マニュアル（ガイド、補足、付録など））をクリックします。**[Quick jump to manuals by category]**（カテゴリ別のマニュアルへのクイック ジャンプ）で、**[White papers]**（ホワイト ペーパー）をクリックします
DPS セルフテスト（DPS Self-Test）	DPS（Drive Protection System）セルフテスト機能を持つ ATA ハードディスク ドライブのセルフテストを実行します 注記：　この項目は、1 台以上の DPS セルフテスト機能を持つハードディスク ドライブがシステムに接続されている場合にのみ表示されます
起動順序（Boot Order）	以下の項目を設定します ● 接続されたデバイス（USB フラッシュ メディア デバイス、ハードディスク ドライブ、オプティカル ドライブ、ネットワーク インタフェース カードなど）に起動可能なオペレーティング システムのイメージがあるかどうかをチェックする順序を指定します。一覧上の各デバイスは、起動可能オペレーティング システムのソースとして個別にチェック対象から除外したり、チェック対象に含めたりできます ● 接続されたハードディスク ドライブの起動順序を指定します。最初のハードディスク ドライブは起動順序が優先され、C ドライブとして認識されます（他にデバイスが接続されている場合） 注記：　MS-DOS®のドライブ名の割り当ては、MS-DOS 以外のオペレーティング システムが起動された後は、適用されない場合があります 一時的に優先される起動順序へのショートカット（Shortcut to Temporarily Override Boot Order） **[起動順序]**で指定した初期設定のデバイス以外のデバイスから**一度だけ**起動するには、コンピュータを再起動し、モニタ ランプが緑色に点灯している間に F9 キーを押します。POST が完了すると、起動可能デバイスの一覧が表示されます。矢印キーを使用して目的の起動デバイスを選択し、Enter キーを押します。初期設定以外の選択したデバイスから、コンピュータが一度だけ起動されます

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[セキュリティ]（Security）

注記：　コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

表 4 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[セキュリティ]（Security）

項目	説明
セットアップ パスワード（Setup Password）	セットアップ（管理者）パスワードを設定して有効にします

表 4 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[セキュリティ]（Security）（続き）

項目	説明
	注記： セットアップ パスワードを設定すると、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティの設定を変更したり、ROM をフラッシュしたり、Windows®環境で特定のプラグ アンド プレイ設定を変更したりする場合にセットアップ パスワードが必要になります 詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください
電源投入時パスワード（Power-on Passowrd）	電源投入時パスワードを設定して有効にします。電源を入れなおしたときに、電源投入時パスワードの入力画面が表示されます。ユーザが正しい電源投入時パスワードを入力しない場合は、装置は起動されません **注記：** 下の項目のパスワード オプションで有効にしない限り、Ctrl ＋ Alt ＋ Delete や Windows の手順によるウォーム ブート時には表示されません（下記を参照してください） 詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください
パスワード オプション（Password Options） （電源投入時パスワードまたはセットアップ パスワードが設定されている場合にのみ表示されます）	以下の項目を設定します ● レガシー リソースのロック（セットアップ パスワードを設定した場合に表示されます） ● ネットワーク サーバ モードを有効/無効に設定します（セットアップ パスワードを設定した場合に表示されます） ● ウォーム ブート（Ctrl ＋ Alt ＋ Delete）時にパスワードが必要かどうかを指定します（セットアップ パスワードを設定した場合に表示されます） ● 閲覧モードの設定を有効または無効に設定します（セットアップ パスワードを設定した場合に表示されます）（セットアップ パスワードを入力しない場合は、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティのオプションを表示できますが、変更はできません） ● 厳重なパスワードを[有効]または[無効]に設定します（電源投入時パスワードが設定されている場合に表示されます）。有効に設定すると、オンボード パスワード ジャンパをスキップして、電源投入時パスワードを無効にします 詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください
デバイス セキュリティ（Device Security）	以下のデバイスに関する、デバイス有効（Device Available）/デバイス無効（Device Hidden）を設定できます ● シリアル ポート（Serial Port） ● パラレル ポート（Parallel Port） ● システム オーディオ（System audio） ● ネットワーク コントローラ（Network Controller） ● 内蔵セキュリティ デバイス（Embedded security device）（一部のモデルのみ） ● SATA0 ● SATA1 ● SATA2 ● SATA3
USB セキュリティ（USB Security）	USB コネクタを個別またはグループ別に無効にできます
★スロット セキュリティ★（Slot Security）	PCIe スロット、PCI スロット、およびそれらのスロットに挿入されているカードを無効にできます
ネットワーク サービス ブート（Network Service Boot）	ネットワーク サーバにインストールされたオペレーティング システムからコンピュータを起動する機能を有効または無効にします（NIC（LAN ボード）が搭載されているモデルのみで使用で

表 4 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[セキュリティ]（Security）（続き）

項目	説明
	き、ネットワーク コントローラが PCI 拡張カードであるか、システム ボードに組み込まれている必要があります）
システム ID（System IDs）	以下の項目を設定します ● アセット タグ（Asset Tag。18 バイトの ID）：会社によってコンピュータに割り当てられたプロパティ ID 番号 ● オーナーシップ タグ（Ownership Tag。80 バイトの ID）：POST 実行中に表示されます ● 本体シリアル番号（Chassis Serial Number）または UUID（Universal Unique Identifier）の入力。UUID は現在の本体シリアル番号が無効の場合にのみ更新できます（通常これらの識別（ID）番号は工場出荷時に設定され、そのシステムを特定するために使用されます） ● キーボード（Keyboard Locale）の設定：英語用やドイツ語用などをシステム ID エントリに対して設定します
ドライブロック セキュリティ（DriveLock Security）	ハードディスク ドライブにマスタ パスワードまたはユーザ パスワードを割り当てたり、パスワードを変更したりします。この機能が有効の場合は、POST 実行中にどちらかのドライブロック パスワードを入力するよう求められます。どちらのパスワードも正常に入力されなかった場合は、次のコールド ブート シーケンスの間にどちらかのパスワードが入力されるまで、ハードディスク ドライブにはアクセスできません **注記：** この項目は、ドライブロック機能をサポートするハードディスク ドライブが少なくとも 1 台システムに接続されている場合にのみ表示されます。ドライブロック パスワードを管理するには、システムの電源を入れ直し、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティにもう一度入ることが必要な場合があります 詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください
システムのセキュリティ（System Security）（一部のモデルのみ：これらのオプションはハードウェア依存）	データ実行防止（Data Execution Prevention）（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。オペレーティング システムのセキュリティの侵害を防止できます PAVP（一部のモデルのみ）：無効（Disabled）/最小（Min）に設定します。PAVP によってチップセットで Protected Audio Video Path が有効になります。このオプションによって、他の方法では再生できない、一部の保護されている高解像度コンテンツを表示できます 仮想化技術（Virtualization Technology）（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。プロセッサの仮想化機能を制御します。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります I/O 仮想化技術（Virtualization Technology Directed I/O）（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。チップセットの仮想化 DMA リマップ機能を制御します。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります Trusted Execution Technology（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。仮想アプライアンスをサポートするために必要な基礎プロセッサおよびチップセット機能を制御します。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります。この機能を有効にするには、以下の機能を有効に設定する必要があります ● 内蔵セキュリティ デバイスのサポート（Embedded Security Device Support） ● 仮想化技術（Virtualization Technology） ● I/O 仮想化技術（Virtualization Technology Directed I/O） 内蔵セキュリティ デバイスのサポート（Embedded Security Device Support）（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。内蔵セキュリティ デバイスをアクティブまたは非アクティブにできます。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります **注記：** 内蔵セキュリティ デバイスを設定するには、セットアップ パスワードを設定する必要があります

表 4 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[セキュリティ]（Security）（続き）

項目	説明
	工場出荷時設定へのリセット（Reset to Factory Settings）（一部のモデルのみ）：リセット（Reset）/リセットしない（Do not reset）に設定します。工場出荷時の初期値にリセットすると、すべてのセキュリティ キーが消去されます。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります **注意：** 内蔵セキュリティ デバイスは、多くのセキュリティ スキームの重要なコンポーネントです。セキュリティ キーを消去すると、内蔵セキュリティ デバイスによって保護されているデータへのアクセスができなくなります。[Reset to Factory Settings]を選択すると、重要なデータの損失につながる可能性があります OS による内蔵セキュリティ デバイス管理（OS management of Embedded Security Device）（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。このオプションを使用すると、内蔵セキュリティ デバイスの OS による制御を制限できます。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります。このオプションを設定すると、内蔵セキュリティ デバイスの OS による制御を制限できます ● OS による内蔵セキュリティ デバイスのリセット（Reset of Embedded Security Device through OS）（一部のモデルのみ）：有効/無効に設定します。このオプションを使用すると、内蔵セキュリティ デバイスの工場出荷時設定へのリセットを要求する OS の機能を制限できます。この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります **注記：** このオプションを有効にするには、セットアップ パスワードを設定する必要があります
★マスタ ブート レコード セキュリティ★（Master Boot Record Security）	マスタ ブート レコード セキュリティの有効/無効を設定できます ● ★マスタ ブート レコードを保存★（Save Master Boot Record）：このオプションは、マスタ ブート レコード セキュリティが有効な場合に表示されます。マスタ ブート レコードのコピーを不揮発性ストレージに保存できます ● ★マスタ ブート レコードを復元★（Restore Master Boot Record）：このオプションは、マスタ ブート レコード セキュリティの保存後に再起動すると表示されます。保存したコピーをハードディスク ドライブのマスタ ブート レコードに復元できます
セットアップのセキュリティ レベル（Setup Security Level）	アクセスが制限されているエンド ユーザが、セットアップ パスワードを知らなくても特定のセットアップ オプションを変更できる方法を提供します この機能を使用すると、エンド ユーザがシステム設定を表示したり重要ではないオプションを変更したりできる状態でありながら、重要なセットアップ オプションへの変更を管理者が保護できるという柔軟性を得ることができます。管理者は、セットアップのセキュリティ レベルのメニューから、状況に応じて個々のセットアップ オプションへのアクセス権を設定できます。初期設定時には、すべてのセットアップ オプションにはセットアップ パスワードが割り当てられているため、任意のオプションを変更するには、ユーザは POST 実行中に正しいセットアップ パスワードを入力する必要があります。管理者は個別の項目のセキュリティ レベルを「なし」に設定することもできますが、この場合、ユーザがコンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティに不正なパスワードでアクセスしていたとしても、特定のオプションの値を変更できることになります。電源投入時パスワードが有効な場合は、**[なし]**を選択すると、電源投入時パスワードで置き換えられます **注記：** ユーザがセットアップ パスワードを知らなくてもコンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティにアクセスできるようにするには、**[閲覧モードの設定]**（Set Up Browse Mode）を有効に設定する必要があります

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[電源]（Power）

注記： コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

表 5 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[電源]（Power）

項目	説明
OS 電源管理（OS Power Management）	• ★S5 最大省電力★（S5 Maximum Power Savings）：有効/無効。この機能を有効に設定すると、このシステムの電力が S5 状態で可能な限り節約されます。S5 状態のときは、ウェイクアップ回路、拡張スロット、およびすべての管理機能に電源が供給されません • 実行時の電源管理（Runtime Power Management）：有効/無効この機能を有効に設定すると、その時点でロードされているソフトウェアがプロセッサの最大能力を必要としない場合に、特定のオペレーティング システムによってプロセッサ電圧および周波数が下がります • アイドル状態での省電力（Idle Power Savings）：拡張（Extended）/標準（Normal）。拡張に設定すると、プロセッサがアイドル状態のときに、特定のオペレーティング システムがプロセッサの電力消費量を下げるようにします • ACPI S3 ハードディスクのリセット（ACPI S3 Hard Disk Reset） この機能を有効に設定すると、S3 スリープ状態からの復帰後オペレーティング システムが有効になる前に、ハードディスク ドライブがコマンドを受け付ける準備ができていることが BIOS によって確認されます • ACPI S3 PS2 マウス ウェイク アップ（ACPI S3 PS2 Mouse Wake Up） マウスを使用した S3 スリープ状態からの復帰の有効/無効を設定します • USB デバイスによるシステムの復帰（USB Wake on Device Insertion）（一部のモデルのみ） この設定を有効に設定すると、USB デバイスを差し込むことでシステムがスタンバイから復帰します • 各スリープ状態時のランプの点滅速度（Unique Sleep State Blink Rates）の有効/無効。システムがどのようなスリープ状態にあるかをユーザに視覚的に示します。各スリープ状態には、固有の点滅パターンがあります 　◦ S0 ＝ランプが緑色に点灯します 　◦ S3 ＝ 1 Hz（50%のデューティ サイクル）で 3 回点滅した後、2 秒間休止します（緑色のランプ）。つまり、3 回の点滅と休止状態のサイクルが繰り返されます 　◦ S4 ＝ 1 Hz（50%のデューティ サイクル）で 4 回点滅した後、2 秒間休止します（緑色のランプ）。つまり、4 回の点滅と休止状態のサイクルが繰り返されます 　◦ S5 ＝ランプが消灯します **注記：** この機能が無効な場合、S4 と S5 の両方でランプが消灯します。S1（サポートされていません）と S3 では、1 秒間に 1 回点滅します
ハードウェア パワー マネジメント（Hardware Power Management）	SATA の電源管理機能によって、SATA バスまたはシリアル ATA パワー マネージメント（またはその両方）の有効/無効を設定します
温度（Thermal）	ファン休止モード（Fan idle mode）：この棒グラフでファンの最低速度を制御します **注記：** この機能では、ファンの最低速度のみ変更できます。ファン自体は自動的に制御されます

コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[カスタム]（Advanced）

注記： コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

表 6 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[カスタム]（Advanced）（上級ユーザ向け）

項目	説明
電源投入時オプション（Power-On Options）	以下の項目を設定します • POST モード（POST Mode）の設定：クイック ブート（QuickBoot）、メモリ消去（Clear Memory）、フル ブート（FullBoot）、または x 日ごとにフル ブート（FullBoot Every x Days） ◦ クイック ブート = メモリを消去しません。メモリ テストを実行しません ◦ フル ブート = コールド ブートでメモリ テスト（カウント）を実行します。すべてのブートでメモリを消去します ◦ メモリ消去 = コールド ブートでメモリ カウントを実行しません。すべてのブートでメモリを消去します ◦ x 日ごとにフル ブート = 1 回目のコールド ブートのとき、または x 日後にメモリ カウントを実行します。1 回目のコールド ブートまで、および x 日より後にメモリ カウントは実行しません。すべてのブートでメモリを消去します • POST メッセージ（POST Messages）の有効/無効 • F9 プロンプト（F9 Prompt）の表示/非表示。この機能を有効に設定すると、POST 実行中に **[F9 = Boot Menu]** と表示されます。この機能を無効に設定すると、テキストが表示されなくなります。ただし、F9 キーを押すと、Shortcut Boot Order Menu 画面が表示されます。詳しくは、**[ストレージ]**（Storage）→**[起動順序]**（Boot Order）の順に選択してください • F10 プロンプト（F10 Prompt）の表示/非表示。この機能を有効に設定すると、POST 実行中に[**F10=Setup**]と表示されます。この機能を無効に設定すると、テキストが表示されなくなります。ただし、F10 キーを押すと、セットアップ（Setup）画面が表示されます • F11 プロンプト（F11 Prompt）の表示/非表示。この機能を表示に設定すると、POST 実行中に **[F11 = Recovery]** と表示されます。この機能を非表示に設定すると、テキストが表示されなくなります。ただし、F11 キーを押すと、リカバリ パーティションからの起動が試みられます。詳しくは、工場出荷時リカバリの起動サポート（Factory Recovery Boot Support）の項目を参照してください • F12 プロンプト（F12 Prompt）の表示/非表示。この機能を有効に設定すると、POST 実行中に **[F12 = Network]** と表示されます。この機能を無効に設定すると、テキストが表示されなくなります。ただし、F12 キーを押すと、ネットワークからのブートがシステムに強制されます • 工場出荷時リカバリの起動サポートの有効/無効。この機能を有効に設定すると、起動ハードディスク ドライブ上にリカバリ パーティションを持つシステムで、POST 実行中に追加のプロンプト[**F11 = Recovery**]が表示されます。F11 キーを押すと、システムによってリカバリ パーティションからの起動が行われます。**F11 = Recovery** プロンプトは、F11 プロンプト（F11 Prompt）オプション（表示/非表示）で非表示にできます（上記参照） • オプション ROM プロンプト（Option ROM Prompt）の有効/無効。この機能を有効に設定すると、オプション ROM をロードする前に画面にメッセージが表示されます（この機能は一部のモデルでのみサポートされます）

表 6 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[カスタム]（Advanced）（上級ユーザ向け）（続き）

項目	説明
	● リモート ウェイクアップ ブート ソース（Remote wakeup boot source）のリモート サーバ（Remote Server）/ローカル ハードディスク ドライブ（Local Hard Drive） ● 電源コードの抜き差し後の電源状態（After Power Loss）のオン/オフ/以前の状態への復帰（Previous State）：以下のように機能します 　◦ オフ：コンピュータに電力が供給されても、コンピュータの電源は切れたままになります 　◦ オン：コンピュータに電力が供給されると、すぐにコンピュータの電源がオンになります 　◦ 以前の状態への復帰：コンピュータが電源から切断されたときに電源がオンになっていた場合、電源に接続し直すとすぐにコンピュータの電源がオンになります 注記： 電源タップのスイッチを使用してコンピュータの電源を切る場合は、サスペンド/スリープ機能やリモート マネジメント機能を使用できません ● POST 遅延時間（POST Delay）：なし、5 秒、10 秒、15 秒、または 20 秒（None, 5, 10 15, or 20 seconds）。この機能を有効に設定すると、ユーザが指定した遅延時間が POST プロセスに追加されます。この遅延時間は、PCI カード上のハードディスクの回転が遅いために、POST が完了した時点でブートの準備ができていない場合に必要となります。また、POST 遅延時間を設定すると、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティを開くために F10 キーを選択できる時間が長くなります ● CPUID の最大値を 3 に制限（Limit CPUID Maximum Value to 3）：マイクロプロセッサから通知される CPUID 関数の数を制限します。Windows NT を起動するときはこの機能を有効に設定します ● ★F1 プロンプトの回避★（Bypass F1 Prompt）：この機能を使用すると、設定が変更されたときに、F1 キーを押さなくてもシステムが再起動されます
メモリ テストの実行（Execute Memory Test）（一部のモデルのみ）	コンピュータを再起動して、POST メモリ テストを実行します
BIOS 電源投入（BIOS Power-On）	オンボード システム デバイス（ディスケット コントローラ（Diskette Controller）、シリアル ポート（Serial Port）、パラレル ポート（Parallel Port）など）のリソースを設定したり無効に設定したりします
オンボード デバイス（Onboard Devices）	オンボード システム デバイス（シリアル ポート（Serial Port）またはパラレル ポート（Parallel Port））のリソースを設定したり無効に設定したりします
PCI デバイス（PCI Devices）	● インストールされている PCI デバイスの一覧と IRQ の設定を表示します ● 各デバイスの IRQ 設定を変更したり、デバイスを無効に設定したりできます。これらの設定は、ACPI 対応のオペレーティング システムには対応していません
PCI VGA コンフィグレーション（PCI VGA Configuration）	複数の PCI ビデオ アダプタがシステムにある場合にのみ表示されます。VGA コントローラのブートまたはプライマリ VGA コントローラの設定を行います 注記： このエントリを表示するには、[内蔵ビデオ]（Integrated Video）（**[カスタム]**（Advanced）→**[デバイス オプション]**（Device Options））を有効に設定してから[変更を保存して終了]（Save Changes and Exit）を選択します
バス オプション（Bus Options）	一部のモデルで、以下の項目の有効/無効を設定します ● PCI SERR#生成（PCI SERR# Generation） ● PCI VGA パレット スヌーピング（PCI VGA Palette Snooping）PCI コンフィギュレーション スペースに VGA パレット スヌーピング ビットを設定します。2 つ以上のグラフィックス コントローラがインストールされている場合にのみ必要です

表 6 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[カスタム]（Advanced）（上級ユーザ向け） (続き)

<table>
<tr><th>項目</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>デバイス オプション（Device Options）</td><td>以下の項目を設定します

● プリンタ モード（Printer Mode）の双方向（Bi-Directional）、EPP&＋ ECP（EPP + ECP）、出力専用（Output Only）

● 電源投入時 Num Lock 状態（Num Lock state at Power-On）のオン/オフ

● S5 ウェイク オン LAN（S5 Wake on LAN）の有効/無効

◦ オフ状態（S5）のときにウェイク オン LAN を無効にするには、左右の矢印キーを使用して[カスタム]→[デバイス オプション]メニューの順に選択し、[S5 ウェイク オン LAN]機能（S5 Wake on LAN）を[無効]（Disable）に設定します。この設定では、S5 のときのコンピュータの消費電力を最小にすることができます。サスペンドやハイバネーションからのウェイク オン LAN の実行には影響しませんが、ネットワーク経由で S5 から復帰することはできません。コンピュータの電源がオンのときには、ネットワーク接続の操作には影響しません

◦ ネットワーク接続が必要でない場合は、ネットワーク コントローラ（NIC）を完全に無効にするために左右の矢印キーを使用して[セキュリティ]（Security）→[デバイス セキュリティ]（Device Security）メニューの順に選択します。ネットワーク コントローラ（Network Controller）オプションをデバイス無効（Device Hidden）に設定します。これで、ネットワーク コントローラがオペレーティング システムから使用できなくなり、S5 のときのコンピュータの消費電力を抑えることができます

● 内蔵ビデオ（Integrated Video）の有効/無効。内蔵ビデオと PCI または PCIEx1 Up ソリューション ビデオを同時に使用できるように設定します

注記： 内蔵ビデオを有効に設定して変更を保存した後は、[カスタム]メニューの下に新しいメニュー項目が表示され、プライマリ VGA コントローラのビデオ デバイスを選択できるようになります

PCI Express x16 ビデオ カードを挿入すると、内蔵ビデオが自動的に無効になります。PCI Express x16 ビデオ カードを挿入しているときは、内蔵ビデオを有効にできません

● マルチプロセッサ（Multi-Processor）の有効/無効。このオプションを使用すると、OS の下でマルチプロセッサのサポートを無効に設定できます

● 内蔵スピーカ（Internal Speaker）（一部のモデルのみ）外付けスピーカの設定には影響しません

● NIC PXE オプション ROM のダウンロード（NIC PXE Option ROM Download）の有効/無効。BIOS に含まれている内蔵 NIC オプション ROM によって、コンピュータの起動時にネットワーク経由で PXE サーバに接続できます。この機能は通常、共通イメージをハードディスク ドライブにダウンロードするときに使用します。NIC オプション ROM は DCH（DOS Compatibility Hole）領域と呼ばれる 1 MB 未満のメモリ領域に格納されます。メモリ領域には制限があります。この[F10]オプションを使用して内蔵 NIC オプション ROM のダウンロードを無効に設定できるため、追加の PCI カード用にオプション ROM 領域が必要な場合、提供する DCH 領域を増やすことができます。初期設定では NIC オプション ROM が有効に設定されています</td></tr>
</table>

表 6 コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[カスタム]（Advanced）（上級ユーザ向け） (続き)

項目	説明
管理デバイス（Management Devices）	[管理デバイス]メニューは、BIOS が複数の管理オプションを検出したときにだけ[カスタム]メニューの下に表示されます このオプションは、ASF または DASH をサポートする、取り付けられた NIC カード用です。[管理デバイス]メニューを使用して、BIOS 管理操作に内蔵ソリューションを使用するのか、取り付けられた NIC カードのどちらかを使用するのかを選択します
管理操作（Management Operations）	以下の項目を設定します ● MEBx セットアップ プロンプト（MEBx Setup Prompt）の[有効]/[無効]。この機能を有効に設定すると、POST 実行中に **CTRL** ＋ **P** プロンプトが表示されます。この機能を無効に設定すると、プロンプトが表示されなくなります。ただし、Ctrl ＋ P キーを押すと、管理機能の設定に使用するユーティリティにアクセスできます **CTRL** ＋ **P** ファンクションによって、[MEBx セットアップ]（MEBx Setup）メニューが起動します。セットアップ パスワードを設定している場合、[MEBx セットアップ]（MEBx Setup）を表示する前にそのパスワードを正しく入力するように求められます。パスワードを3回間違って入力した場合は、[MEBx セットアップ]（MEBx Setup）は起動しません ● SOL 文字エコー（SOL Character Echo）の有効/無効。一部のリモート コンソールはリモートから入力された文字を表示するため、その文字列が 2 回表示されることがあります（リモート入力時に 1 回、ローカル クライアント ビデオからのエコー バック時に 1 回）。このオプションを使用すると、リモート入力された文字列のローカル ビデオ ディスプレイへのエコーを SOL ターミナル エミュレータで抑制するように管理者が設定できます ● SOL のターミナル エミュレーション モード（SOL Terminal Emulation Mode）の有効/無効。VT100 端末のエミュレーションと ANSI SOL 端末のエミュレーションを選択します。SOL 端末エミュレーション モードは、リモート AMT リダイレクト操作中にのみアクティブ化されます。エミュレーション オプションを使用すると、管理者はコンソールに最も適したモードを選択できます ● SOL キーボード（SOL Keyboard）の有効/無効。SOL セッション中にクライアント キーボードを有効または無効に設定します。リモート修復によっては、管理者の提供するリモート イメージをローカル クライアントが起動する機能が含まれる場合もあります。このオプションは、ローカル クライアントの操作が発生した場合に BIOS がローカル キーボードを有効/無効のどちらの状態にするかを決定します。ローカル キーボードが無効になっている場合、すべてのキーボード入力はリモート ソースからのみ受け付けられます

構成の設定値の回復

この方法で復元する場合、**[システム構成の復元]**を実行する前に、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティの**[リムーバブル メディアに保存]**（Save To Removable Media）コマンドを実行しておく必要があります（「コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[ファイル]（File）」の表の「3 ページの リムーバブル メディアに保存（Save to Removable Media）」の項目を参照してください）。

注記： コンピュータの構成を変更したら、その構成を USB フラッシュ メディア デバイス、またはディスケットと同等のデバイス（ディスケット ドライブをエミュレートするよう設定された記憶装置）に保存し、将来使用できるようにデバイスを保管しておくことをおすすめします。

構成を復元するには、構成を保存した USB フラッシュ メディア デバイスまたはディスケットをエミュレートするその他の記憶装置を挿入し、コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティの**[リムーバブル メディアから復元]**（Restore from Removable Media）コマンドを実行します（「コンピュータ セットアップ（F10）ユーティリティ：[ファイル]（File）」の表の「4 ページの リムーバブル メディアから復元（Restore from Removable Media）」の項目を参照してください）。